

## 馬頭観音

椿を歩く



常福寺の馬乗り馬頭観音像

かっ  
ていま  
す。

石造の馬  
頭観音像は、

文字で「馬  
頭観音」と

刻むものと、  
観音像が馬

に乗る「馬  
乗り馬頭観

音」と呼ば  
れる浮き彫

り像とに分

けられます。市内で最も古い

ものは1758年の馬乗り馬

頭観音像で、刻像塔は写真の

像を含め10基ほど確認されて

います。

市内の馬頭観音像は大まか

な傾向として、1800年代

馬乗り馬頭観音については  
まだまだ不明な点があるもの

の、関東から東北地方に分布  
し、中でも圧倒的に千葉県内

に多いとされています。県内  
でも所在未調査の地域もある

と思われませんが、東総地域と  
上総地域西部の市原・君津・

木更津市などに多く分布して  
いると報告されています。

写真の像は、椿・常福寺門  
前に石仏群と一緒にまつられ

ています。像に人の名はありま  
せんが、おそらく馬を飼って

いた人が供養のためにまつっ  
たのでしょう。

椿村は中世からの天神・五  
正部や中心集落の宿に加え、

江戸時代・1670年ごろか  
らの椿湖干拓後にできた集落

などでできています。干拓後  
の集落に対し、「椿本村」と刻

まれた石塔も見られることか  
ら、宿集落などでは椿村の中

で本村を意識したのかも知れ  
ません。

1721年の記録には村の  
家数94軒、人数474人、馬

47頭とあり、意外に馬が多  
かったような気がします。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報広聴班

☎ 73・0080

今年の干支は「甲午<sup>きのえうま</sup>」。午  
年にちなんで「馬頭観音<sup>ばとうくわんのん</sup>」信  
仰を紹介することにします。

仏教とともにさまざまな仏  
像がわが国に伝来し、観音信  
仰が広まりました。馬頭観音  
は六観音の一つで、馬の守り  
神として信仰が盛んになった  
のは江戸時代以降のこととさ  
れています。

市内で馬頭観音像をまつる  
寺院はありませんが、昭和50  
年代から始めた石造物の調査  
で、江戸時代にまつられたも  
のが現在までに20基余り見つ

けられます。市内で最も古い  
ものは1758年の馬乗り馬  
頭観音像で、刻像塔は写真の  
像を含め10基ほど確認されて  
います。

市内の馬頭観音像は大まか  
な傾向として、1800年代

以降文字塔が多く見られるよ  
うになります。像をまつる目

的の一つが「馬の追善供養」  
とされていて、造立者は個人

や上谷中、飯倉新田、宮和田  
(匠瑳地区大浦)など村や講

中が集団でまつったものも見  
られます。